

【研究発表・論文】 ※2001年以前の論文は旧姓「松木きか」で発表している。以下はその一部。

〔学術論文〕

1. 『黄帝内経素問』全元起注の復元と王冰注本の構成（『集刊東洋学』66号60～82頁、中国文史哲研究会）、1991年。単著。〔審査付〕
2. 『黄帝内経』所引の古医書について（『東洋学』第69号18～41頁）、1993年。単著。〔審査付〕
3. 「北宋の医書校訂について」（『日本中国学会報』48号164～181頁）、1996年。単著。〔審査付〕
4. 「歴代史志書目における医書の範疇と評価」（『日本中国学会報』50号92～107頁）、1996年。単著。〔審査付〕
5. 「中国における病の分類と体系」（『大正大学中国学研究』第18号35～47頁）。1999年。単著。
6. 「本草と道教」（『講座道教・道教の生命観と身体論』79～98頁。雄山閣出版）、2000年。単著。
7. 『黄帝蝦蟆経』について（『宮澤正順博士古稀記念・東洋一比較文化論集一』239～252頁。青史出版、2004年、単著。
8. 「中国医書における禁忌の変遷—兩漢から北宋まで」（『従医学看中国史学術研討会』会議手冊、32頁、台湾中央研究院語言研究所）2005年、単著。
9. 「魯迅と医学—十全なる知への憧憬」（『中嶋隆藏博士退休記念論文集 中国の思想世界』357～384頁、イズミヤ出版）2006年、単著。
10. 「中国伝統医書中「禁忌」的変遷」（『従医療看中国史』441頁～496頁、台湾・聯経）2008年10月、単著。
11. 「隋唐期的『素問』」（『大韓韓医学原典雑誌』22巻4号、韓国・大韓韓医学原典学会）2009年11月、単著。
12. 鄭玄「三礼注」における「気」字の用法の一側面（『集刊東洋学』第105号1頁～20頁、東北大学中国文史哲研究会）2011年6月、単著。
13. 「身体部位名称と身体認識—『説文解字』『釈名』と「三礼」及びその鄭注を対象として—」（『後漢経学研究会論集』第3号、153ページ～186頁、後漢経学研究会）2011年6月、単著。
14. 「鍼灸歌賦の押韻について」（『東北大学中国語学文学論集』第16号167頁～194頁、東北大学中国文学研究会発刊、2012年3月、単著。

〔学会報告〕

1) 日本中国学会

「唐容川の学術—中国伝統医学における西洋近代医学の受容の一面」（2000年10月）第52回大会、会場・東京大学。

2) 日本道教学会

『黄帝蝦蟆経』について（2003年11月）第54回大会、会場・明海大学。

3) 東北中国学会

「魯迅の医学観」第53回大会、2004年5月。

4) 日本医史学会：発表抄録

- ① 〈経絡血管説〉再考 (2000年)第46巻第3号、398-399頁
- ② 『范汪方』について (抄) (2004年)第50巻第1号、140-141頁
- ③ 小野豊三郎の解剖学ノート (抄) (2005年)第51巻第2号、216-217頁
- ④ 『体雅』諸本10種の関係について(抄)(2010年)第56巻第2号、239頁
- ⑤ 秦伯未批校『医学見能』について (抄) (2011年)第57巻第2号、162頁
- ⑥ 中国鍼灸歌賦について (抄) (2012年)第58巻第2号、182頁

5) 日本鍼灸史学会 (旧称・鍼灸臨床文献学会)

1. 『素問』と『靈枢』の成立〔1993年11月、第1回〕
2. 『甲乙経』諸本の性格について〔1994年11月、第2回〕
3. 『甲乙経』の音釈について〔1995年11月、第3回〕
4. 歴代史志書目における医籍の範疇と評価〔1996年11月、第4回〕
5. 医書序文における医学史観〔1997年11月、第5回〕
6. 馬王堆出土脈書について〔1998年11月、第6回〕
7. 『四庫全書総目提要』の医書観〔1999年11月、第7回〕
8. 『千金方』と『千金翼方』〔2000年11月、第8回〕
9. 張家山出土『引書』初探〔2000年第8回、共同研究者・加藤裕之〕
10. 『脈経』二十四脈の音韻学的アプローチ〔2001年11月、第9回〕
11. 『説文解字』の身体部位〔2002年11月、第10回〕
12. 『黄帝蝦蟆経』と『吉日抄』『座右抄』〔2003年11月、第11回〕
13. 隋唐諸書における『内経』の引用〔2004年11月、第12回〕
14. 『備急千金要方』太医鍼灸宜忌の分析〔2006年11月、第14回〕
15. 脈輸同根説再考〔2007年11月、第15回〕

【 雑誌記事 】

- 1) 「陰陽」「五行」「五臓六腑」「気」(「しにか」 Vol.8/No.18. 『特集◎漢方入門小事典』20~29頁) 大修館書店、1997年。
- 2) 伝統鍼灸の現状と未来〔「鍼灸 OSAKA」44号、森ノ宮医療学園出版部アルテミシア)、1996年。
- 3) 「扁鵲伝集解」初探(「鍼灸 OSAKA」60号、森ノ宮医療学園出版部アルテミシア)、2000年。
- 4) 「《経絡血管説》再考」(「日本医史雑誌」 Vol.46・No.3、日本医史学会)、2000年。
- 5) 「気功のルーツと種類」,「東洋医学の本」103~106頁、学研・2001年第一刷。
- 6) 『黄帝蝦蟆経』臨模本の価値(「鍼灸 OSAKA」64号、森ノ宮医療学園出版部アルテミシア)、2001年。
- 7) 李建民氏の〈灸法の起源〉簡介(「季刊内経 2003 夏号・No.151」4~15頁)、内経医学会、2003年。
- 8) 第二回経穴部位国際標準化に関する非公式諮問会議から(「鍼灸 OSAKA」74号、森ノ宮医療学園出版部アルテミシア)、2004年。
- 9) 「経書の中の数と身体」(鍼灸 OSAKA 別冊ムック 総特集『東洋の身体知~からだを通して見るアジア』94~106頁、森ノ宮医療学園出版部アルテミシア) 2004年。
- 10) 「魯迅の解剖学ノートについて」(『東北大学留学百周年 魯迅と仙台』146~149頁、東北大学出版会)、2004年。

- 11) 『『茫汪方』について (抄)』(「日本医史雑誌」2004年 Vol.50、1号、140～141頁、日本医史学会)、2004年。
- 12) 「小野豊三郎の解剖学ノート (抄)」2005年 Vol.51・No.2、216～217頁、日本医史学会)。2005年
- 13) 巻頭言「百年後」および附論「魯迅と『医心方』」(「季刊内経」2007年夏号・No.167」2頁、81～85頁)、日本内経医学会、2007年。
- 14) 「うたっておぼえるツボの文化」(「アジア遊学」No.105「特集：日本庶民文芸と中国」150～164頁、勉強社)、2007年12月。
- 15) 「連載：私の基礎医学・中国古典研究序説」(「季刊：経絡治療」所収、146号(平成13年7月)～160号(平成17年2月))
- 16) エッセイ「よしなしごと」2006年より2013年までメールマガジン「あはきワールド」に随時掲載。